

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	鹿島市立東部中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの生徒が充実した学校生活を送っている。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。</li> <li>生徒の学力については、県平均を下回る学年や教科がある。実践的な授業研究に取り組み、職員の教授スキルを向上させ、引いては生徒の学力向上につなげたい。</li> <li>地域や家庭と一体となって教育を進めなければいけないが、コロナ禍の中では難しいものがあった。ICT機器を効果的に活用するなどして、連携を図らなければならない。</li> </ul>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	<p style="text-align: center;">郷土を愛し、『心豊かに ともに伸びる』 ～ STEP UP! あいさつ(A)・掃除(S)・勉強(B) プラスワン ～</p>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①心の教育の推進(あいさつ・掃除)(豊かな心づくりと体づくりの推進)</li> <li>②学力の定着と向上(勉強)(確かな学力づくりの推進)</li> <li>③生きる力の育成(志を高める教育・進路指導の充実)</li> <li>④地域とともにある学校づくり(開かれた学校づくりの推進)</li> </ul>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	・マイプランを掲示し、常にそれを意識した授業が展開できるように工夫する。	A	・マイプランの成果指標を上回った教師は78.6%。80%には届かなかったが、対話的で深い学びの実践が難しいコロナ禍の中で、各々が工夫して授業を行うことができた。
	○指導方法の改善・充実	○授業が「分かる」と答える生徒の割合75%以上	・主体的に対話的な深い学びをおこなうためアクティブラーニング等の表現活動や活用を取り入れた授業に取り組む。 ・授業研究会を計画的に実施する。	A	・授業研究会をのべ6回行った。西部型授業の実践や情報機器の活用について研究を深めることができた。 ・2回目のアンケートでは88.5%の生徒が分かるとう回答している。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・ふれあい道徳の実施。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を実施する。	A	・道徳年間計画に沿って授業実践できた。その結果2回目のアンケートでは、道徳の時間を通して人としての生き方を学んでいると答えた生徒91.1%。道徳の時間が役に立つと答えた生徒94.8%。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○職員のいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、80%以上	・毎月、生活アンケートを実施し、生徒指導主事を中心に全職員で生活面での問題の早期発見・早期対応につなげる。	B	・毎月の生活アンケート実施、職員会議時の共通理解を通して、いじめ等の早期発見に努めた。 ・差別やいじめをしないよう心がけている生徒96.9%。学校がいじめがないよう取り組んでいると答えた保護者75.1%。
	◎夢や目標を持ち、その実現のための進路指導の充実	○自分の将来のために努力を惜しまない生徒の割合80%以上	・キャリアパスポートを利用し、学習状況やキャリア形成を見通したり振り返りさせ、自分の進路について意欲的に考えさせる。 ・SGE等を利用して自己肯定感や有用感を高める。 ・地域の教育資源や人材をいかした体験活動や講演会を実施する。	A	・地域の職業人を招へいし講話いただくなど、地元と密着したキャリア形成を行った。 ・自分の将来のために努力している生徒78.1%。 ・人の役に立ちたいと答えた生徒95.9%
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○遅刻率(遅刻延日数÷出席延日数×100)1.5%未満 ○「早寝早起き朝ごはん」ができていない生徒の割合80%以上	・フォーサイトを利用し、自己管理できる力を養う。 ・各種たよりを発行し、保護者のに生徒の様子を積極的に知らせる。 ・生徒を安全に登下校させるため、定期的にルールやマナーについて指導を行う。	B	・フォーサイトを通して担任が生徒にアドバイスすることで、生活の改善につながった。 ・遅刻率2.3% ・早寝早起きの習慣ができていない生徒70.3% ・朝食を毎日食べている生徒93.8% ・生徒の交通事故件数0件
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする			
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、部活動休養日の設定 ・業務内容を精選する。また、業務を分担し、一人に過重負担がないようにする。	A	・機会あるごとに、時間外勤務時間を公表し、職員に残業時間削減を意識させた。 ・これまでの職員の平均残業時間33.9時間
	○働き方改革の推進	○業務を精選しながら業務の効率化を図っているとう答える職員が90%以上	・業務改善の提案を積極的に、職員が行える環境を整える。	A	・東部中掲示板の利用することで、情報伝達時間の削減につながった。 ・業務の効率化を図っているとう答えた職員95.4%

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果
○あいさつや掃除の充実	○「あいさつ」や「掃除」の充実	○生徒が「元気よくあいさつができて」と答える保護者の割合が80%以上 ○「掃除がきちんとできて」と答える生徒の割合が90%以上	・生徒会やPTAと連携してあいさつ運動を行う。 ・掃除のときも職員が臨場指導し、その都度生徒を評価する。	A	・生徒会を中心に挨拶運動・美化運動に取り組んだ。 ・子どもが元気よく明るく生活できていると答える保護者85.5% ・挨拶をきちんとしている生徒99.5% ・掃除をきちんとしている生徒99.0%
○地域とともにある学校づくり	○地域とともにある学校づくり	○「地域に誇りを持っている」と答える生徒の割合が80%以上	・ボランティア活動に積極的に参加させる。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 ・サービスマーケティングを行う。 ・HPを使って積極的に情報発信を行う。	A	・コロナ禍で地元に出向いての活動が予定通りできなかったが、地元の方に講師に来ていただくなどした結果、アンケートでは、鹿島市で生活できて幸せと答えた生徒91.7%であった。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの結果をみると、生徒は充実した学校生活を送っている。職員が生徒一人一人のことを考えて教育活動に取り組んでいることがよくわかる。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。しかし、自己肯定感や自己有用感が低い。行事や生徒会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育む手立てをとらなければならない。</li> <li>県学力調査の結果からみると、県平均を下回る教科があり、改善しなければならない。生徒の学習に取り組む姿勢をよりよくするために、学力向上コーディネーターや研究主任が中心となって工夫改善していく。</li> <li>コロナ禍の中で地域や家庭と一体となった教育実践は難しいものがあった。ICT機器を効果的に活用するなど工夫して、連携を図らなければならない。</li> </ul>
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------